

「米軍基地はいらない」



沖縄で歴史に残る県民大集会

党派こえ心ひとつに この力は、必ず歴史を動かす

国政の大きな焦点となっている沖縄の米海兵隊普天間基地（宜野湾市）をめぐる問題で25日、「基地はいらない」と党派をこえ、沖縄の人々が心ひとつにして県民大集会が開かれました。会場の読谷村運動広場に9万人を超える人々が集いました。この力は必ず歴史を動かすでしょう。「世界一危険」な米海兵隊。普天間基地は、県内外を問わず「たらい回し」するのではなく、無条件撤去こそが、沖縄県民と日本国民の願う道です。鳩山首相はこの立場でアメリカにきっぱりとモノをいい、決断すべきです。

これだけ平和が大事になっている時に…

守山市は新人職員の自衛隊体験入隊を強行

防衛講話、戦車試乗が必要なことが

2010年(平成22年)4月20日 火曜日 滋 13

新人職員 自衛隊で研修

守山市は、自衛隊が実施している「体験入隊」に今年採用した職員を22日から1泊2日の日程で参加させる。社会経験が浅い新人に、規律や協調性の大切さを学ばせるとしている。

受け入れ先の陸上自衛隊今津駐屯地（高島市）によると、体験入隊は企業が研修に利用することが多く、

守山市が初

県内の自治体が職員を参加させるのは珍しいという。参加者は4月1日採用の職員30人のうち、看護師や保育士らを除く行政職の男女16人。いずれも20代で、新卒をはじめ、社会人経験者もいる。

体験入隊「規律、協調性学ぶ」

現地では、隊員の基本姿勢や動作を学んだ後、約8%の徒歩行進などを体験。食事や就寝も集団で行う。通常の日程は2泊3日だが、守山市では初の試みのため、1泊2日の日程とした。同市は「規律を通じる自衛隊での経験を通じて、新人の社会人意識を高めたい」（人事課）としている。（六川征志）

京都新聞に報じられた記事 2010.4.20付

4月20日付京都新聞で報じられた「新人職員を自衛隊に体験入隊」の記事は、多くの市民を驚かせました。日本共産党守山市委員会と平和委員会守山支部は、即日、市に抗議と中止を口頭で申し入れ、翌日文書でも申し入れました。ところが一泊2日の「体験」は、22日と23日強行されました。防衛講話や戦車試乗がなぜ新人研修に必要なのか。市の対応と姿勢が問われています。

原則拒否できない強制研修
 新人研修は、自治体職員としての資質を培う大事なものです。全ての市民の利益につながる課題について、積極的に研修するのは当然ですが、自衛隊入隊体験が、どうしても実施しなければならぬ研修なのか、新人職員に必ず履修させなければならぬ研修なのか疑問です。拒否したくても、基本的に拒否できない強制研修に、自衛隊体験入隊を組み入れることそのものが、問題ではないでしょうか。

突然、「自衛隊への体験入隊」新人職員が手にした研修計画書には、今回の研修について、「宿泊研修 目的 社会規律、協調性 場所 高島市饗庭」と書かれているだけで、自衛隊体験入隊とは書かれていません。幹部職員も、今年度そのような研修をすることを、新聞報道で始めて知ったという人も。研修内容をしっかりと吟味すべきではないでしょうか。

研修内容に「防衛講話、戦車試乗、装備品展示見学」
 2日間にわたる研修日程表には、防衛講話や戦車試乗などのメニューが。実際に、雨の中、カッパを着て教官の号令のもと集合整列、行進などの訓練、合計約5kmの持久走や、朝5時起床、6時から雨の中カッパを着て、約7キロの山道歩行訓練、さらに戦車に試乗して走行、銃や設備の見学などがあつたとのこと。

日本共産党
守山民報

守山市議会議員
 こまき一美

党守山市くらし対策責任者
 まつば栄太郎

TEL・FAX 582-3785
<http://komaki.jcp-web.net/>

TEL 584-3077
 FAX 584-3466

日本共産党守山市委員会発行 480号 2010・4・28 TEL 583-8552 FAX 583-1098

毎週木曜日 午後5:45～6:45 守山駅で街頭宣伝しています。